



2023年1月27日/230号



幼稚園 048(794)3104

HP URL  
http://wakuwaku-dokidoki.com

<添付手紙>  
・2月のランチメニュー

子どもたちが主役

生活発表会 -その1-

日本列島が10年に一度という寒波に見舞われた今週。寒さに震えながらも子どもたちは元気一杯です。

生活発表会の準備も順調に進んでいるようです。先日も手足にペイントした下着姿の子どもたちがシャワー室めがけて駆け抜けていきました。寒さなんて何のそのなのです。

さて、進級組の方たちには繰り返しのようになりますが、初めて生活発表会を迎えられる方々のために、園の考え方をお知らせしたいと思います。

1. お子さんの成長を見ていただく場

生活発表会を目標に練習を積み重ねるのではなく、保育の延長上として捉え、日々の生活や遊びの積み重ねを歌や合奏・劇遊びという形につなげて、発表会当日に見ていただきます。

2. 人に見せることよりも、まずは自分たちが楽しもう

生活発表会の内容は、子どもたちの小さな遊びやみんなで経験したことなどをきっかけとして決めていきます。遊びや劇ごっこなども役割を交代して色々な役を楽しんだり、大道具や小道具・背景や衣装を作ったりなど、当日までのプロセスを十分楽しんでいます。

3. 子どもの発想や思いを大切に

できるだけ子どもたちと相談したり、アイデアを生かしながら、自分たちで作り上げる喜びを感じられるよう、保育者が援助していきます。身に付ける衣装や大道具・小道具などには子どもたちのアイデアが満載。

また、年長組では劇遊びのストーリー作りには多くの時間をかけ、みんなで考え、アイデアを出し合って作り上げます。セリフも大人が決めたものではなく、自分たちで考えたものです。

<プログラム内容>

○ 3歳児 手遊びから

日頃親んでいる手遊びをもとに発表します。何もかも初めてのお子さんたちです。舞台上に上がれなくても大勢のお客さんの姿にびっくりして固まってしまうとOKです。

○ 4歳児 絵本をもとに

大好きな絵本から劇遊びにつなげていきます。絵本の筋書き通りではなく、あちこち子どもたちのアイデアも取り入れながら作り上げていきます。

○ 5歳児 創作劇

テーマを決め、筋書きを作り、配役・セリフ・舞台装置・衣装などゼロから子どもたちが時間をかけ話し合って決めていきます。これまで培った力を存分に発揮した集大成です。

<劇作りエピソード>

あるクラスのテーマが3歳児と被ってしまったと聞いた子どもたち。さあどうする。「えー、作り直すヤダー」と大ブーイング。小さい組さんと同じになるけどいいの?の問いに、「それはイヤダー」とプライドが許さない様子。と、ある子が「ボクがんばる」とひと言。それに触発された周りの子が最初から作り直すことに同意。またゼロからの出発となりました。子どもたちからは「2作目の方が面白くてできた」という声も上がり、更に豊かで楽しい内容になり、子どもたちのやる気も満々です。

順調に進むプロセスも良いけど、挫折を乗り越えてこそ成長があると感じた出来事でした。(園長)



イケてる顔でしょ!



子どもたちがつきやすいように羽根は手作り!



レジ袋が風に変身